

4 学年（国語）の ICT 機器を活用した授業実践報告

1. 授業実践

単元・題材名	理由を明確にして意見文を書こう（『もしものときにそなえよう』）
目標	意見文の内容をグループで話し合い、文章に書き表すことを通して、北校舎のリーダーとして伝えたいことと理由や事例との関係を捉えることができる。

2. ICT機器の具体

I C T機器	i P a d, Google スライド
機能	作成物の即時的な共有
活用の目的	同じテーマの友達と意見文を共有することで、「北校舎のリーダーとして伝えたいことに対する理由や事例との関係」や「伝えたいことや理由（事例）の中で使われている表現」についての関係を捉えることができる。

3. 活動中の児童の様子

私は北校しゃのリーダーとして、みんなときょう力することが大切だと思いました。

なぜなら四年生になると、林聖学校などの校外の活動がたくさんあり、きょう力する場面がふえるからです。たとえば、グループイベントチャターの時、地図関係がないと道に迷ってしまうということが起こると、一人で道いれないと迷ってしまうので、みんなできょう力しないといはグループでたどりつけないからです。それに、みんなできょう力してから道に迷わないように、道いれるからです。もう一つ難点があります。それは、三年生の教室の前を通る時、しずかに歩くにはみんなできょう力して歩くことが大切だからです。一人で話すと、うるさくなってしまいます。しずかに歩く、三年生が四年生になった時、新三年生の教室の前をしずかに歩けるからです。

だから私は、みんなときょう力することが大切だと思います。

グループのそれぞれの個人が作業するページ
意見文のページ

- ①同じテーマの子どもでグループになり、Google スライドの同一ファイル上でそれぞれ意見文を書く。
- ②子どもたちは、スライド上にあるグループの意見文を瞬時に共有することで、伝えたいことと理由との内容が繋がっているかを確認したり、書き表し方のアドバイスをもらったりした。
- ③意見文を読む3年生が納得する内容にするために、友達との話し合いを基に、共有と編集を繰り返していき、図③のような意見文を完成させた。3年生に読んでもらい、「ためになった。」や「4月からがんばりたい。」という感想をもらい、学習の成果を実感することができた。

4. 成果と課題

成果 本単元では、意見文を書く中で、グループ全員が互いの意見文を共有し、アドバイスし合い、理由や事例のつながりについて明確にししながら意見文の作成を進めることができた。これは、ICTを活用したことで、グループの子どもが同時に同じ画面を見ながら話し合うことを可能にし、共有からアドバイスをもらうまでの時間が短く、編集も容易なため、文を削除したり、書き直したりする機会が増え、繰り返し伝えたいことと理由や事例との関係に着目できたためであると言える。

課題 瞬時に共有・編集することを可能にする一方で、編集した形跡が残らないため、思考の過程が残らない。そのため、何度も同じような修正や話し合いを繰り返す姿も見られた。毎時間ごとの意見文をスクリーンショット等で保存したり、編集した箇所を赤で示しながら書き直したりして、思考の過程を辿ることができる工夫も必要であるとする。